

横須賀・三浦 放射線技師会報

主な記事

- 巻頭言 千葉 一
- 特集「当直四方山話」
- 「初めてのブース展示」 服部祐治
- 新役員紹介
- 第2回理事会報告
- 第1回釣り大会報告
- パソコン・インターネット意識調査



No.77

Vol-24-No. 2 11. Nov. 2000

発行・横須賀三浦放射線技師会広報

巻頭言



他者の声、自分の声

副会長 千葉 一

20世紀最後のオリンピック、シドニー大会が無事終了した。日本選手の活躍に一喜一憂し、この時ばかりは民族の血を感じる。

この栄光の五輪大会の陰になってしまった感があるが、千葉すず選手の問題を思い出す。彼女は五輪代表から漏れた事に対し選考基準が不明瞭だと日本水泳連盟に向かって声を出した。が、日本水泳連盟は落選に客観性を示さなかった。スポーツ仲裁裁判所に提訴し裁定を仰いだが棄却された。彼女は果たして敗れたのか。

「五輪出場の道は閉ざされたが彼女がこじ開けた扉からは鮮烈な光が差し込んだ。情報開示は、自らの選手生命と引き換えに改革を求めた非凡なアスリートへの最低限の礼儀だと思う。改善の歩みを止めてはならない。(朝日新聞西村編集委員)」

投げられた石による波紋は小さくなかった。

とかく組織が大きくなると融通が利かなくなり不透明な部分が見え隠れするようになる。それに対して個人で立ち向かってもなかなか扉は開かれるものではない。組織の硬さに問題があるのか、そこにいる個々人の姿勢に問題があるのか。

横須賀三浦放射線技師会も創立50年を越え大きくなった。融通が利かなくなったか？不透明な部分はあるか？否。そんなことはない。と、役員の間からはそう見えてしまうのだが会員、賛助会員の皆様からはどうか。そんな風に思えないのではと不安が無くはない。不満はあるに違いない。「理事会だってそれなりに努力しているのだから」とダンマリを決め込んでいるのかもしれないし、「どうでもいいや、とりあえず組織に属しているのだから」という人もいるだろう。

声を出そう。たとえかなわなくても相手が人であれば必ずやその声は届くし、技師会はその声を必要としている。技師会も硬い殻で固まることのないよう努力を惜しんではならない。

「改善の歩みを止めてはならない」のだ。

五輪の環は民族の出会いを意味する。競技の傍らでそれらも多く伝えられた。しかし、IT革命が叫ばれる今日では、人や自然との出会いも自分自身との出会いもますます間接的に希薄になるだろうといわれている。そうなるに直接の出会いが貴重でこれをおろそかにはできない。そして、その出会いを素晴らしいものにするには、自分の枠組み(フィルター)を外して試みるのが肝要である。自分の内にある価値観や既成概念を壊してみるのだ。出会った相手の声は勿論、自分自身の声もまた違った響きとなるだろう。

外に他者の声を聴くには、内に自分の声を聴く耳がなければならない。

特集！「当直四方山話」

今回の特集は「当直四方山話」です。若手技師の当直初体験記から、今では想像もつかない、昔の古き良き時代の笑い話まで、いろいろ取り揃えました。「ああ、そんなこともあったな～」と笑い流してくださいネ。

横須賀共済病院中央放射線科

田尾 彰啓

自分が技師になって今年で4年目を迎える。技師国家試験会場の異様な雰囲気の中、何だか妙に不思議な気分で席に着いていた自分も、もう4年前のことになるのかと、つくづく時間の経過する早さを実感してしまう。

我が中央放射線科は、新人として迎えられてから1年で当直業務をすることになっている。つまり当直歴3年目だ。業務内容は、手術室や各病棟のポータブル撮影を含む一般撮影の他、CT・アンギオ・心カテに対応する。新人はこれだけの内容を、1年間で一通りマスターしなければならないときたものだから困ったものである。たとえ1度覚えても、時間と共に忘れてしまうこともある。数カ月ぶりにCTに着いてみたら、細かい操作を忘れていて手が止まってしまうこともある。「あれ？どこのボタンだったけ？」緊張のはしる一瞬である。自分自身、もちろん全てをマスター出来た訳でもなく、特に手術室は大の苦手で、全業務の中でも迷うことなく1・2番に上げることができる苦手な場所だ。こんな多くの不安を抱えながら技師1年目を駆け抜けた自分は、否応なしに当直の初デ

ビューをすることになった。

そんな記念すべき初当直の初仕事は、手術室だった。よりによって...。今でこそCRが導入され条件的には幾分楽になったものの、当時は撮影してから写真が出来てくるまでの十数分間、「条件はどうだっただろう、ポジションは合っていたらどうか...。」などと重苦しい精神的重圧に押し潰されそうになって、控え室で待っていたものだ。(これは今でもあまり変わらない自分である)。

夜中に急患が来たときなどは、夢と現実との狭間の中で苦しむことになる。ひどいときなど、1時間おきに電話が鳴り病院中を歩き回ったり、おまけに翌朝の7時30分には時間指定なるポータブル依頼が存在し、起き抜けの疲れ切った体を酷使してカセット枚数15枚ほどの撮影へ向かうのだ。それが翌朝あるんだなあ、と考えるだけでもグッタリしてしまう。そんな当直業務も、精神的・技術的にレベルアップに貢献してくれているような気がする。当直は全くの一人だ。全て自力で成し遂げなければならない。不安な気持ちに襲われながらもまた、自由な発想で色々と試してみることも出来る。失敗しても成功しても、それは自信につながってきたような気がする。判断に困って、真夜中に副技

師長宅へ電話したこともあったし、もちろん周囲の協力があってこそのものであろうが。

噂では、今後業務内容をさらに拡大して行くという話もある。これ以上拡大したら、いったい仕事量はどれほどになってしまうのだろうか。あまり考えたくはないが。



昭和44年、横浜市〇〇病院。当時のこの病院は放射線科の当直は無く、男子は皆事務当直を義務づけられていた。社会人になり、たいした思いもなく医療業界に身を置き、右も左もだけでなく四方八方、360°何もわからない純真無垢の私、紫一部も初当直、といっても見習いの身分。優しい先輩に付いてウロウロ。一通りのオリエンテーションが終わり院内巡回。ガードマンなんていなかった。しばらくすると優しい先輩がソワソワ。純真無垢の私にはその意味が分からない。ウロのI先生たちと4人で何やら四角いテーブルに座ってジャラジャラ。随分と時間のかかるオシゴトらしい。当直時だけでなく勤務が終わると一杯飲みながら遅くまで卓を囲んでいた。当時はたいした娯楽もなかったのである。前年他界した父もたまたま興じていたっけ。「お前は電話番号でもしている。」電話なんて殆どこない。救急車だって、急患だって滅多には来るものではなかった。当直ってこんなものなのか。「おい！どうせヒマなんだからお前も一杯飲めや！」未成年の私に向かってなんて事を言うのだ。しかし、命令とあればイヤとは言えず少しだけ…。今の私からはどうてい想

でも確かに苦労はするが、また考えようによっては、なかなか楽しいものになるのも事実。これからどんな出来事と遭遇するかは全く不明ではあるが、なるべくならそんな苦労も楽しく思えるようなものになればいいものである。

像もつかないだろうがその時の私は下戸。あとで知らされたがとんでもないことになってしまうのだ。すっかり正体を失ってしまい、4階内科病棟の特別室に護送され、デイナーで食した五目ラーメンを逆噴射してしまったと聞かされた。キクラゲは殆ど消化されていなかったらしい。翌朝A婦長に酷く叱られた。事実関係を記憶していない私には理不尽な説教としか思えなかった。件の優しい先輩も私を庇うどころか冷たかった。社会人は辛いのだと初めて知った。

何ヶ月かの後、そんなこともあったのかと思わせるほどベテランになった私。当直業務も一人でリッパに出来るようになっていた。その日も仕事は落ち着いていた。事務室のスミのソファベッドに横になり朝を迎える。しかし、ヤレヤレ当直も終わりというわけにはいかなかった。通りに面した窓が全部割られているではないか！どうしたことだ！どうしよう…。私がぐっすり寝ている間に暴漢に襲われたのだ。酷い奴だ！でもどうして気づかなかったのだろうか？暴漢がソーッと悪さをしていたのかしら。そうだ、絶対そうに違いない。幸いなことに被害は窓ガラスだけで済んだからよかったものの、それ以上だったらどうするのだ。下戸の私に酒呑みの気持ちなんぞ解りはしないが、酔っぱらいが自分の人生のストレス発散に石でもぶつけ

たのではないかと、この事件を私なりに分析した。今度はY事務長とO院長に叱られた。暴漢が私に気づかれないようにソーッと悪さをしたのだと言い訳は出来なかった。人は叱られるときでも潔くしなければならないのだ。

昭和48年、横須賀市K病院。私、紫一部は新天地にヨコスカを選んだのだ。とは言っても、そこに自らの意志が強くあったわけではない。O口病院のT技師長が「俺は辞める。お前も辞めろ。」と言って去ってしまったからだ。T先生とはそれから10数年後に横浜南部技師会会長として再会することになるが、その時は勿論考えてもみないことだった。そんなこんなで千代田のSさんが私を連行してくれたのがK病院だったのだ。ここでも当直は事務当直であった。やはり患者様は殆ど来なかった。最初の当直の時、K産婦人科医長から頂戴したジョニ黒片手に仕事に就いた。その時の私はもう下戸ではなく、むしろ上戸の部にバージョンアップしていたのだ。特にウイスキーが好きだった。勿論ビールだって好きだし日本酒だって少しは飲めたが日本酒は大人の酒だと思っていた。最初の当直の晩だし、ちびりちびりと水割りを飲んでた。K病院がキリスト教主義の病院だということを知っていたが、それがどういうことなのかは理解できていなかった。記念すべき初当直の日にキリスト教の愛について考えさせられることになる。その時事務室に当直でもないの一人の女性の眼科医がいた。F先生とって院長補佐であり、敬虔なクリスチャンであった。読んでいた新聞をそっと机に置き、ボトル半分も空けていない私に向かって「それ位で止めなさい。」の一言。どうして？まだなんにも酔っていないジャン！あとで聞かされた。K病院はキリ

スト教主義の病院だから酒を飲んではいけなかったのだ。煙草もだめなのだ。もう事務当直は懲り懲りだ。F先生はそんな若造の私にそれは優しく、たった一言でこの病院での生き方を論してくれたのだ。こうしてワガママだがカシコイ私は真の医療人として目覚めていった。

そうこうしているうちに時代は放射線当直を必要とし始め、M技師長、I院長補佐と画策し、内科と外科の当直の時に限り放射線当直をすることにした。ちなみに当科はレントゲン室、1年後に放射線室、昭和61年に放射線科、平成10年に放射線技術科と名称が変遷し、それとは関係ないが酒や煙草も規制緩和された。とはいっても特別なとき以外は勿論いけない。さて、放射線当直に変わっても一晩に何度も起こされることはまず無かった。その晩も極めて穏やかで、夕食、TV、読書と時が過ぎ、冷蔵庫のネムリ薬を少々、いよいよベッドイン。朝までぐっすりのはずだった。何時だかわからない夜中、「起きてよ！頼むから起きてよ！！」と私を揺さぶる。なんだ？！なんだではない。急患らしい。慌てて撮影し事なきを得る。患者様にも大したことはなく「ああ、よかった。」そういつてそのシーンは終了。そして爽やかな朝。しかし、一緒に当直した医師、看護婦、事務はそうではなかった。あの何時だかわからない夜中に私を起こすのが大変だったのだ。ドアを何度叩いてもダメ、鍵を開けて部屋に入り、寝ている私を直接揺すっても直ぐにはお目覚めにならなかったようなのだ。とりあえずIVHでもいれて様子をみようか、なんて話になったというではないか。一度枕を手にとると身動きひとつせず爆睡してしまうことをはじめて知った。医療人の端くれとしてもっとシッカリしなくてはと、後

で反省した。何れにしても、やおら起きて仕事をした私に「ああ、よかった。」で済ませてくれたのだ。なんて心の広い、愛に満ち溢れた人たちだろう。かくして私はチーム医療の大切さを身に凍みて実感できたのだ。

平成12年、酷暑の夏。私、紫一部の古き良き時代の秘めたる当直悲話を綴った。最後に、今の私は見事に更正し、ある程度の社会一般常



むかし、昔、この様な当直がありましたとさ！！

当直四方山話 その一

Long Long ago まだ、技術専門当直ではなく、事務当直の頃の話である。当院には名物先生といわれる3人の変わり者の医師がいた。皆その医師に当たるのが嫌なのですが、嫌と思うと良く当たるのが世の常、人の常、その日も救急患者が来院し医師をポケベルで呼び出したのだが？応答がない。仕方なく、今病棟で急変した患者さんがいて対応しているので暫くお待ちくださいと取り繕い、医師を探し続けた。患者さんがまだですか？と聞いた瞬間、玄関からステテコ姿に腹巻き扇子で顔を仰ぎながら見慣れた顔が入ってくる。アッ先生！！急患なの診察する？その場を繕った俺の努力は？俺の立場は？アア冷や汗が流れ落ちるのが良く分かる味わいたくない瞬間！！

当直四方山話 その二

世の中で、一番難しいことの一つに大虎を小

識を踏まえた厚顔の爺と化し、ここに書いたことはそんなにはないんだということを、ここまでお付き合いいただいた皆様に誓って申し上げておかなければならない。また、表題の四方山話、つまり世間話としてはあまりに不適切な内容であることも併せてご理解いただければ幸いである。

猫にして帰っていただく事がある。これができる人は無条件で尊敬してしまう。何時死んでも良い！さあ殺せ！連れてきたから来てやったんだ等の悪態をつき暴れ回る。頭から血を流しながらも痛がらないのが特徴である。押さえ付け、なだめながら止血処置がおわり、会計も済みお帰りいただくのみとなったが一向に帰らない。ほろ酔い気分で世間話をしてくる。数時間が過ぎ、酔いも覚め始めたらしく今度は泣き出した。家に出来の悪い娘がいるらしくこぼしている。おれもそこまで暇じゃないと思いつつもお茶を出しなだめる。夜が白けた頃帰っていただいたが、町内会の役員で市長とも懇意で俺の事を昇級させてやると言い残して帰ったが、今だ！昇級の沙汰はない！！

当直四方山話 その三

アルコール依存症なる人々はかつて多くいたように思う。残業で遅くなり当直室の前を通り帰ろうとした時、オイ、オイの声、『当直代われ』と叫んでいる。見るからに当直継続は不可能である。普段からトリスのポケット瓶を懐に隠し持ち嗜む人である事は分っていた。

見るともう腰が立たない、便所に連れて行き小便をさせチ〇チ〇を振って閉まってやり当直室

に戻った。一寸休む？見ると布団は濡れていた。酒では無くどうも小便を垂らしたらしい。強気にお前は明日の朝、布団を干しておけ！！俺は寝る！！と言って高野状態に入ってしまった。仕方なく当直に入った。熟睡したらしく朝方布団

を干していた。オオ悪かったな！！もう帰っていいヨ！！

そう言われてももう出勤の時間だし…？

『昨日俺になにが起こったのだろう？？』

初めてのブース展示

副会長 服部 祐治

平成12年11月3日(金)文化の日、曇りのち雨、八景島シーパラダイス・イベント広場において、6キロコースと10キロコースの、すこやかかながわ万人健康ウォークが開催された。県技師会より9月中旬に新倉会長に依頼があり、南部技師会との合同で健康生活展へのブースに、放射線技師会の宣伝の展示をお願いされる。

ブースへの出展は初体験であり、わずか1ヶ月半の準備期間でどのような出展を考えれば良いかいかいも見当がつかず、とりあえず臨時理事会を開催し、南部技師会と合同で打合せを行なった。以後3回の理事会で「人にやさしい放射線」のテーマで展示を決定し、子供のために、風船、くじ引き、ポラロイド記念写真など準備し、さらに大人には放射線知識パンフレット、CT・MRI・血管造影のフィルム展示、ビデオ鑑賞、放射線測定器などの展示を決定する。さすが横須賀三浦技師会である。11月3日当日、新倉会長が沖縄学会により不在の中、わずか1ヶ月半の準備期間で体裁を整え無事出展にこぎつけた。

当日は8:00位に集合しブースの展示は整ったが、子供用の風船をヘリウムガスで膨らましていたが、風のためテープで押さえていた風船、手で持っていた風船が何個か曇り空の中へ消えていった。またあらかじめ膨らましていた風船が破裂したり、ガスの調整や大きさがまちまちであり、準備した200個の風船を全部膨らます事が出来なかった。お祭りなどで出ている夜店のテキヤさんの域に達するのは、相当熟練が必要であることを痛感させられた。クジは子供だけでなく大人にも人気があり、孫へのお土産といってクジを引かれる方が大勢でおられ一個も残らなかった。健康ウォークへの参加者は、当会より横須賀共済の石島氏が6キロコースに愛犬と参加されたが、愛犬としばしたわむれた後、愛犬が疲れたということで歩かずに帰宅された。

午後2時30分までの出展予定であったが、1時30分頃より雨が降りだし、県の桜田理事の「終わりましたよ」の発声により、早々に店じまいを行ない解散となった。ブース来訪者は約280名(子供役00名)くらい訪れ、上々

の成果であったと思われる。

また、お手伝い頂いたコニカ、千代田ニチエーの方々には紙上をお借りしてお礼申し上げます。

当日の役割分担

総括	3名	千葉 服部 羽布津	来場カウント	2名	半澤 小津
風船関係	5名	二田 二田(娘) 鈴木 近藤 桜庭	南部技師会	3名	草柳 高田 綿貫
			県技師会	1名	桜田
くじ	2名	松井 三堀	総計	23名	
ビデオ	1名	高久			
展示	2名	宮村 安藤	物品残り：風船80個	シール100	
ポラロイド	3名	大石 高木 宮沢	パンフレット	21部	
案内	1名	濱田			



すこやかかながわ一万人健康ウォークに参加して

横須賀北部共済病院

石丸 博

健康ウォーク 11月3日の朝。七時に起床し、窓の外を見ると、昨晚には中止かなと思われた雨もやみ、曇りに変わっていたものの、なんとなくアヤウイ感じの天気。雨さえ降っていなければ参加しようと思っていたので、我が家をAM9:00 出発と決めて準備開始だ。妻は、6時半から洗濯、朝食にお弁当作りと、大忙し。私は、子供を起こして、朝食を食べさせ、着替えさせる係（暴れたり、遊んだりしてなかなかはかどらない）と、外出前の我が家は、いつも、あたふたとしているのだ。最後に子供のトイレを済ませて、今回もなんだかんだと出発が予定より15分遅れでバスに乗り込み、ショートコースの集合場所、富岡総合公園へ。AM10時集合には、危ないかも？

バス～根岸線～シーサイドラインと乗り継いで、鳥浜駅に着いたのが10時15分、スタートの10時半までには受付を済ませようと私だけ先に行くことにした。スタート場所の芝生広場に10分ほどで着くと、なんと準備体操を始めているではないか、総員で100人ぐらいかな？その人々の間を潜り抜け、何とか受付を終了。地図に赤いバツナと飲み物を貰う。もうスタート時刻と言うところで、やっと後ろから妻と子供たちが追いついてきた。いやあ、ちょうど間に合ったとホッとしたところ長女3歳が、“トイレ！！”といいだして、出遅れてしまった。最後尾ながらも気楽で良いやと思直して、

それでは“出発！！”。道の要所に案内人がいるので迷う心配は無い。大型スーパーの脇を抜けてシーサイドライン沿いの金沢緑地の中に入ると、そこはもう紅葉していて赤や黄色に染まっている。この街中の緑地で季節感の出る落葉樹を選んで植えたのだろうか？なかなか良い思いつきだなあと感心していると、前方に同じバンダナを着けた子供連れを発見、これを追い越し更に行くとトイレの前にまたまた子供連れが数人並んでいた。だんだん追いついてきたなと思いつつ歩いていると長女が疲れてきたみたいで、ぐずり出した。これはもうオンブかなと思っていたところ、偶然にコースの案内人が、長女にどんぐりをくれた。そうすると途端に機嫌が直ってまた歩き出してくれた。結局ここまで、シーサイドラインの並木北～並木中央～幸浦と併走し柴町の住宅地を抜けて、八景島シーパラダイスのイベント広場まで向かう、6Kmと言えども平坦だし子供でも1時間半で歩け、ほぼ車道に出ない安全なコースになっていた。我が家も12時にはイベント広場に到着したものの殆ど最後のほうだった。しかし3歳の長女がナント完歩したので我が事のように嬉しかった。

さて会場では、医師会、看護協会、リハビリ、と色々なブースがでていたが、まず一番奥の放射線技師会のブースに行くと、横須賀・三浦技師会のいつもの面々がいた。記念のポラロイド写真を撮って貰ったり、子供にお菓子を戴いた

りしてこれも嬉しかった。横須賀共済病院の二田さんには、長男（1歳）まであやして頂いて感謝感激。しかし、ブースの皆さん朝早くから寒い中、本当にご苦労様でした。きっと技師会のアピールとしてもうまくいったと思います。

さてその後私たちは、昼食に妻の手作り弁当を食べながら、舞台上の医師でありながら落語家の方の講演を聞いた。医師の知識をふんだんにまじえた話で今回の健康ウォークには、ぴったりの内容だと思った。続いてお楽しみ抽選会、

豪華賞品が次々に当選していく。しかし、この頃には今までもっていた天気もついに崩れだし、ポツポツと雨が降ってきた。ところが帰る人も無く、抽選が続き、宿泊券、キタムラのバックと佳境に入ったものの、我が家は全く成果なし。残念ながら次回に期待というところでしょうか。3歳と1歳の子供づれで大変だったが、このような大会に家族で参加したのは初めてだったので、とても楽しむことが出来た。皆様も来年どうでしょう？

初めての釣り大会

日本メジフィジックス株式会社

末吉 貴

私の初めての行事参加が、この釣り大会でした。私は釣りをあまりしたことがなく、小学校の頃、近所の川でハゼ釣りをしたことがあるくらいで、海に出て釣りをした経験がありませんでした。経験不足からくる不安と期待を抱きつつ、当日を迎えました。

当日、夏の海の日差しの強さと船の揺れの大きさに驚いているうちに釣り大会は開始され、皆いっせいに釣り始めました。そんな光景を横目に、私はイソメと格闘していました。ウネウネと動く奴との闘いは長く、数分かかって針に付け終わり、海に投げ入れて、5分後針をあげてみると、もう針に奴はいませんでした。そんなことを繰り返しているうちに、キスではないもののオコゼなどの魚がかかり始め、90分後には待望のキスが釣れました。もうそうなるとおもしろくて、夢中になってしまいました。イソメと格闘することもなくなり、キスを手でつかみ針をはずすようになり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。終了時刻にはすっかり釣りにはまった自分を発見しました。

また、次回も参加したいと思います。



新役員紹介

福利厚生 大石小太郎



横須賀共済病院

新しく、技師会のお手伝いをさせて頂くことになりました。

担当は、福利厚生です。斎藤、狩野幹事に教わりながら、技師会に参加する方々の親睦を計っていきたいです。どうぞ、ご協力おねがいします。

と、建前が終わり、明るく、楽しく皆で集まりましょう。

新倉会長、千葉副会長との連携はもとより、会員ならびに理事の皆様方の協力を頂きながら、努力してまいりたいと思いますのでよろしくお願い致します。

庶務 近藤 明彦



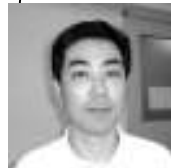
横須賀共済病院

今年度から理事になりました、近藤明彦というものです。石川県からやってきて、技師会に入り早7年目になります。しかし理事会ではまだまだ若輩者でしかありません。

この若造が理事なんぞというお仕事を、現会長に任命された時、「Why?」とも思いましたが、今の自分にやれることをやるだけだと思ひ引き受けました。

基本的にマイペースなもので皆様にご迷惑をかけると思いますが、のんびり頑張っていきますのでよろしくお願い致します。

会計監査 安藤 悦男



逗葉地域医療センター

この度、会計監査となりました、逗葉地域医療センターの安藤です。

ある日、会長から会計監査をやってくれないかと電話がありまして、あまりに突然のお話に頭がぼ～としているうちに、つい「はい」と答えてしまいました。何で私がという思いもありますが、いままで技師会の活動に不熱心だったので、もう少し参加しようということなのでしょう。しかし、引き受けたからにはがんばってみたいと思います。

さて、自己紹介ということですが、妻1人に子が3人、趣味は特にありませんが、スポーツを見るのは好きです。平々凡々な38才です。逗葉地域医療センターでの私の業務ですが、検診車に乗って横須賀、三浦をはじめ、あちこち走

りまわっています。朝早いのが大変ですが、外にでるのもいいものですよ。特にこの時季、海岸線を走るのは気持ちいいですね。

みなさんの病院に再検査の方が行きましたら、よろしく願います。

平成12年度
第2回理事会議事録
二田 勇

日時平成12年7月25日 18時より
場所 横須賀共済病院第1会議室
会議に先立ち元横須賀三浦放射線技師会副会長、横須賀クリニックに勤務した故福島和樹先生に敬意を評し黙祷を捧げた

1) 庶務経過報告 二田理事より

- 5月16日 6月25日開催ゴルフ大会案内と会費納入請求書を添えて会員36通、賛助会員22通送付
- 6月15日 第86回研究会案内と納涼会案内を会員、賛助会員に送付
- 6月20日 理事会開催案内送付
- 6月22日 横須賀クリニック勤務福島和樹氏本人の訃報を連絡網にて連絡弔電生花を供えた
- 6月25日 千葉総丘カントリークラブにて5組18名参加にてゴルフ大会開催
優勝 服部祐治 (横共)
準優勝 松田文雄 (横共)
- 6月27日 福利厚生主催7月30日つり大会案内を会員、賛助会員に送付
- 7月 7日 会長宛に横須賀医師会会長より

7月29日ヴェルクよこすかにて開催学術講演の案内が届いた(演題 緊急時被爆医療 講師 東京大学医学部救急医学教授前川和彦先生)

- 7月11日 技師会報N075号を会員、賛助会員に送付(医師会の学術講演の案内を同封した)
- 7月15日 第86回研究会を横須賀共済病院5階講堂にて開催46名の参加、終了納涼会、横浜南部地区納涼会に清酒2本届けた
- 7月18日 衣笠病院鈴木宏一氏県衛生表彰の申請を横須賀市衛生部に送付
- 2) 会計報告 坂詰理事より一般会計出納、中間決算報告があった
- 3) 広報部 柳沢理事より、次号に大石、近藤両新理事の紹介を載せる報告あり
- 4) YMBIT 高久理事より、ホームページに847件のアクセスありの報告
- 5) 福利厚生 斉藤理事より、7月15日納涼会39名の参加報告と7月30日釣り大会の案内報告
- 6) 救急センター 松井、三堀両理事欠席で会長が報告購入物品は立位リーダー購入を交渉中の報告あり

- 7) 地区委員 宮村理事より報告あり
- 8) その他 会長より7月29日医師会主催の勉強会の紹介、国家公務員倫理問題についての報告と3役会にて衣笠病院鈴木氏を県衛生表彰に推薦の報告あり

第1回
横須賀・三浦放射線技師会
釣り大会報告
福利厚生 狩野 聡

技師会初の釣り大会を7月30日(日)久比里は山天丸よりキス釣り船を仕立てました。当日は真夏の日差しが強烈にふりそそぐ暑い中、船宿には総勢19名が集まり、準備も整った9時前に千葉副会長の挨拶にて出船しましたが、久里浜港に出てみると夏特有の南西風が強く吹き付けており飛沫を浴びながらも一路、野比沖へ向かいました。

ここ数日来的強い風による底荒れの為か、はたまた誰かの行いが悪いのか、キスの活性はいま一つで、メゴチは良く釣れるものの本命はなかなか針がかりせず、ぼつぼつと釣れているという感じでした。又、外道は多彩で代表格のメゴチは投入のたびにほとんど入れ食い、ホウボウ、ヒメジ、たこ、ワカシ、トラギス、マダイ、ハナダイの他、メゴチえさで狙っていたメゴチの大物外道も釣れ上がりました。

14時に釣り終了となり他船の帰港する前に船着場にてビールで喉を潤いつつ釣果発表および賞品贈呈式をとり行い、衣笠病院鈴木氏の「締め」の挨拶にて15時頃閉式としました。皆さんお疲れ様でした。

さて、今回は初の釣り大会なので幹事の独断でハンデを加算しました。キスのみの釣果は以下の通りです。

順位	名前 所属	グロス	ハンデ	トータル
1位	男鹿親子ペア パシフィック HP	18	親17 子10	45
2位	小宮勝樹 エルク	20	20	40
3位	大高 東芝	18	20	38
4位	鈴木宏和 衣笠病院	24	10	34
5位	小川 エルク	12	20	32

大物外道賞 北部共済 HP 生方氏 「メゴチ」
バスグロ 富士メディカル 家前氏 「25匹」

三部合同納涼大会報告
福利厚生

梅雨明けを感じさせる暑い日が続き、ビールが美味しい季節の到来で一す。學術部の第86回研究会と同じ、7月15日(土曜日)6時から横須賀中央駅前の「魚民」で39名の参加のもと「いつものよおーに」技師会恒例の三部合同大納涼大会を開催しました。

当日は蒸し暑い一日で、飲み放題のビール・冷酒が飛ぶように売れ、若い店員さんは汗だくで注文に走り回って本当にご苦労様でした。今回は平成12・13年度の新役員での研究会・納涼会開催でしたので参加会員・並びに賛助会員とそれぞれ自己紹介等していただいた。しかし我々の会は何わなくともお酒があれば……。楽しい宴会の席も、恒例となった二田さんの一本締めで無事1次会を終了しました。今回2次会は会長推薦の「こせんや」と決まり、語り足りない会員・賛助会員約20名は横須賀の街へ……。

研究会では良く学び、納涼会での冷たいビールは美味しかった、明日は二日酔いかな？皆さんお疲れ様でした。

第86回研究会報告

学術 濱田

2000年7月15日(土)15:00より、横須賀共済病院5階大講堂にて研究会を開催致しました。今回は、2000年初頭を飾る、新学術部の初仕事でした。横須賀市保健所の小柳、衣笠病院の松村、三浦市民病院の佐々木、そして横須賀三浦技師会報の前々号でしたか、皆様にお別れのご挨拶をしたばかりなのに、まだ学術部に居残っております、私、北部共済の濱田の4名でございます。何故か、無口でシャイな男どもが4人も雁首揃えておりますが、ギャーギャー言わずに仕事はバッチリ、不言実行といった感じで責めていこうと思っております。

今回は、賛助会員の演題を2題、会員発表も2題設定することが出来、参加者も総勢46名となかなか盛況でした。

今回、特に気づきましたのは、従来のスライドを用いた演題が一題もなかったことでした。まあ、今回たまたまそうなったのかも知れませんが、4題全てがパソコン出力によるプレゼンテーションで行われまして(OHPもパソコンからのプリンター出力ですよ)、*「もうコンピューターの時代なのですよ」*と改めて気づきました。これからコンピューターを使って何か発表を、と考えていらっしゃる会員の方がいらっしゃいましたら、我々学術部やYMBITに一声かけてくだされば、いくらでも相談に乗ります。この地区にもパソコンの使い手はごちゃまんと居ますので。

さて、プログラムは以下の通りです。

1.「フィルムバッジからガラスバッジへ」

(株)千代田テクノル 柚木正生先生

2.「FDPの現状と将来性について」

東芝メディカル株式会社 五條俊宏先生

3.「当院におけるMRIの使用経験」

衣笠病院 松村高宏先生

4.「乳癌と核医学」

横浜南共済病院 斎藤 節先生

まず、千代田テクノルの柚木先生による「フィルムバッジからガラスバッジへ」では、今回(株)千代田テクノルにおいて新たに開発され、来年度より現行のフィルムバッジから切り替わる新製品の説明でした。特に我々も、学生時代に教わったくらいで、なかなか実際に使った方も少ないのではと思われませんが、なんとガラス線量計が正確性を武器に個人線量計の分野に再登場してきた訳ですね。生産技術の向上がもたらした技というのでしょうか。話によれば、他社も全く別の新製品に切り替わるそうですよ。ご自分の身に付けている個人線量計、今一度調べてみてはいかが？そして、法改正の前でしたが、無理を言ってICRP勧告による新しい法律、放射線障害防止法の内容の概要などもお話ししていただきました。この秋頃成立すると思われるこの法律の内容は、従来とは随分と変わるみたいですので、いずれまた研究会の中にもでも取り入れてみたいと考えております。

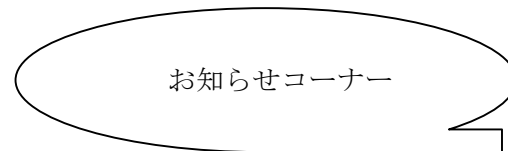
次に、東芝メディカル株式会社の五條俊宏先生による「FDPの現状と将来性について」では、現在の最先端技術といえる、開発中のフラットパネルディテクタ(FDP)についての発表でした。今、まさに開発の段階を終えようとしている、そして臨床の現場に登場しようとし

ているFDPの話題は、あたらしもの好きの我々技師にとって、ナカナカ興味深い話題だったのでは？これからどんどん押し寄せてくるデジタル化の波は、いったいどんな形で我々の前に登場するのか？その急先鋒がこのフラットパネルではないでしょうか。他社による一般撮影系での話題に限らず、東芝メディカルが開発を手がけている動画系のフラットパネル製品の話題は、その登場を心待ちにさせてくれました。

そして会員発表です。衣笠病院のエース、松村先生による「当院におけるMRIの使用経験」では、このたび衣笠病院に導入されたMRI装置の演題を急遽お願いしたものでした。急な話で準備も大変だったことと思われませんが、学術部の新役員ということもあってか、文句も言わず引き受けてくれました。導入間もなく、いろいろと苦労もあったようですが、ミニパソコンを駆使して淡々と話す姿が印象的。実はこのあとの三部合同納涼会でY共済のMRI主任技師さんと、M共済のMRI主任技師さんと3人で延々語り合う姿を、私、見てしまい、「おお、松ちゃんしっかり渡り合ってるじゃん」と、感心することしきり。この夏自衛隊病院にもMRIが導入されるとのこと、この技師会を通じてMRIの分野でも、この地区の技術向上に我々が少しでも役立てれば、と思いました。

次に横浜南共済病院の重鎮、斎藤先生の「乳癌と核医学」では、いつもの斎藤先生の流暢な語り口には、私惚れ直してしまいましたが、その内容は、普段なかなか聞けない話題だったのではないのでしょうか。乳癌の治療に核医学が取り入れられているというのは、恥ずかしながら私、知りませんでした。斎藤先生のご説明、とても勉強になりました。

そして、プログラムは終了し、松村先生より衣笠病院のMRIの症例写真の供覧もあり、一同このあとの納涼会へ向けて、盛り上がりは徐々にピークに近づきます。そして、中央駅前の魚民へ。この続きは福利厚生の方へバトンタッチですな。 (学術 濱田)



★第87回横三研究会

日時：平成12年11月25日(土)

15:00～

場所：横須賀共済病院 5F 講堂

演題：

- ①高濃度低粘性粉末製剤の基礎と臨床評価
衣笠病院
- ②?
横浜南共済病院
- ③当院におけるCT業務の現状と問題点
横須賀市立市民病院
- ④QGSに関する多施設共同研究
横須賀共済病院
- ⑤水溶性造影剤の予備テスト廃止について
日本シェーリング
- ⑥転移性脳腫瘍に対するプロハンスによる
造影意義
エーザイ
(順序未定)

★福利厚生主催ボーリング大会

日時：平成12年12月2日(土) 15:00～

場所：ブランドウィックスポルト横須賀

(ダイエーションパーズ 7F)

会費：1000円(2ゲーム、貸靴代を含む)

申込：横須賀共済病院 大石 0468-22-2710

横浜南共済病院 斎藤 045-782-210

横須賀三浦放射線技師会 平成 12 年度 中間決算

一般会計

2000/10/19

収入の部

収入項目	平成 1 2 年度予算	中間決算額	未収金額
前年度繰越金	153,556	153,556	0
会費	250,000	264,000	-14,000
賛助会費	502,000	502,000	0
寄付	0	5,000	-5,000
利息	250	137	113
救急センター事業収入(1)	30,000	0	30,000
技師会コンピュータ購入(50周年より)	150,660	150,660	0
雑収入		30,000	-30,000
合計金額	1,086,466	1,105,353	-18,887

支出の部

支出項目	平成 1 2 年度予算	中間決算額	残金
会議費	135,000	76,850	58,150
学術費	120,000	120,000	0
広報費	120,000	120,000	0
福利厚生費	120,000	120,000	0
庶務費	150,000	27,166	122,834
渉外費	50,000	7,250	42,750
YMBIT 助成金	45,000	45,000	0
名簿作成費	100,000	0	100,000
補修費	40,000	5,250	34,750
慶弔金	40,000	30,556	9,444
技師会コンピュータ購入繰越	150,660	0	150,660
予備費	15,806	0	15,806
雑費			
合計	1,086,466	552,072	534,394

積立金会計

2000/10/19

収入の部

収入項目	平成 12 年度予算	中間決算額	未収金額
前年度繰越金	546,533	546,533	0
県技師会助成金	15,600	0	15,600
積立金利息	250	355	-105
救急センター事業費(2)	200,000	0	200,000
技師会コンピュータ購入繰越	150,660	150,660	0
50周年会計より繰入	234,624	234,624	0
合計金額	997,007	781,512	215,495

YMBIT からのお知らせ

横須賀三浦放射線技師会

パソコン・インターネット

実態調査のお願い

YMBITでは今回、会員の皆様のPC所有率、インターネット利用率、
eメール利用率、技師にとってのPCの使い方、疑問、
ナドの実態調査をいたします。

この結果を集計報告し、会員のパソコン・インターネットの普及、および
「初めてのPC購入」「初めてのインターネット」
(会員の疑問に答えて、解決していく。自宅や職場、PCショップに行って購入から
設置、インターネットの接続までお手伝いする)
等、YMBITの活動に役立てたいと思います。

ご協力をお願いいたします。

(ご記入いただいた用紙は添付の封筒に入れ、
郵送またはフィルムメーカーさんにお渡してください。)



ホームページアドレス

<http://www.ne.jp/asahi/ymart/ymbit/index.html>

メールアドレス: ymbit@internet.email.ne.jp

YMBITでは、皆さんに楽しんで利用していただけるホームページをめざしています。

皆さんからのご意見、ご希望、投稿をお待ちしています！

編集後記

広報担当 須藤 敏

通研通りの櫛もすっかり葉が落ち、冬の訪れを感じる今日この頃です。
技師会ニュース No77 はおかげさまで、20 世紀最後の発行となりました。
我が横須賀三浦放射線技師会も先人達の努力の末、半世紀余を迎えることができました。

21 世紀はどんな百年になるのでしょうか？
2001 年は IT 革命元年として、小中学校に光ファイバーの設置をはじめとして総額 7000 億円もの予算がついております。国民の多くが、自由自在にインターネットを操り昼夜を問わず、世界の人々と情報を交換することができるようになるのです。

私達の周りからは手紙がなくなり E メールが届きます。E メールは自筆の文字と違い、皆同じ文字で個性がなく冷たい感じがしませんか。

TV ゲームでは仮想現実に入り込めます。そこでは相手を気遣うやさしさは存在しません、自分の都合の悪いときは電源を切ればよいのです。

パソコンと過ごす時間が多くなり、人とふれあう時間がますます少なくなるでしょう。そんな未来におもいやりの心が育たないと危惧するのはわたしだけでしょうか。

21 世紀に向けて、私たち放射線技師は人とのふれあいを大切にしていきたいと思います。

横須賀三浦放射線技師会報

vol. 24No. 2 通算 77 号

2000 年 11 月 発行

編集/発行 広報

印刷/製本 コニカメディカル(株)

コニカ(株)

広報担当 横須賀市民病院 柳沢 正和
高橋 宏之
高久 博樹
衣笠病院 神田 真世